



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年7月31日

上場会社名 ユニフォームネクスト株式会社 上場取引所 東
コード番号 3566 URL <https://www.uniformnext.com/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）横井 康孝
問合せ先責任者 （役職名）取締役管理部長 （氏名）早川 光人 TEL 0776（43）1034
半期報告書提出予定日 2026年8月7日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	5,894	25.9	419	50.0	424	50.2	270	29.8
2025年12月期中間期	4,681	11.5	279	27.8	282	20.8	208	38.2

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	26.78	26.68
2025年12月期中間期	20.64	—

（注）2025年12月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの希薄化効果を有していないため、記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期中間期	6,042	4,084	67.3
2025年12月期	5,356	3,855	71.8

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 4,066百万円 2025年12月期 3,846百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2026年12月期	—	0.00	—	—	—
2026年12月期（予想）	—	—	—	6.00	6.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	21.7	900	19.3	909	19.5	600	15.9	59.33

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2026年12月期中間期	10,123,178株	2025年12月期	10,123,178株
2026年12月期中間期	10,778株	2025年12月期	10,778株
2026年12月期中間期	10,112,400株	2025年12月期中間期	10,104,626株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況.....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況.....	2
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況.....	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が下支えとなり、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、地政学的リスクに伴う原油・原材料価格の変動や、金融資本市場の動向など、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

かかる状況の下、当社は法人シフトの加速、ならびにWEBマーケティングと営業提案力を融合したハイブリッド販売モデルの確立を成長戦略の柱として位置づけ、市場シェアの拡大とLTV（ライフタイムバリュー）の向上に努めてまいりました。

当中間会計期間における販売活動におきましては、前事業年度の需要動向を踏まえ、主力であるファン付き作業服をはじめとする春夏用季節商材の在庫を早期から積み増すとともに、法人顧客への早期アプローチに注力いたしました。この戦略的な在庫確保と即納体制が、4月および5月の全国的な気温上昇に伴う旺盛な需要と合致し、販売機会を最大限に取り込むことに成功いたしました。6月に入り、気温が前年に比べて低く推移したことから季節性商品の販売が一時的に鈍化したものの、期首からの先行的な取り組みが寄与いたしました。

【部門別の販売状況】

サービス部門においては、クリニック向け同梱ミニカタログの刷新による効果や、自社専売の医療用スクラブの継続的な販売増が寄与したほか、飲食業界向け商材についても価格改定前の駆け込み需要に合わせたセグメント配信の強化等により、底堅い需要を獲得いたしました。これらの結果、同部門の売上高は1,598,779千円（前年同期比2.2%増）となりました。

オフィスワーク部門においては、4月から5月にかけて全国的に高温となる日が続いたことから、ファン付き作業服などの主力商品が全体の売上を大きく牽引いたしました。一方で、6月は気温が前年に比べて低く推移したことにより、季節性商品の動きが一時的に鈍化いたしました。これらの結果、同部門の売上高は3,357,670千円（同35.0%増）となりました。

ホールセール部門においては、ECサイトによる効率的な集客と人的営業の提案力を融合させたハイブリッド販売モデルの展開をさらに推進いたしました。オンラインセールスとフィールドセールスが連携し、EC経由で見積もりやサンプル依頼のあった大口の法人顧客に対し迅速なアプローチとフォローアップを行う体制を強化したことで、高単価かつ継続性の高い大口法人案件の成約が加速いたしました。これらの結果、同部門の売上高は938,379千円（同49.0%増）となりました。

以上の結果、当中間会計期間の経営成績は、売上高5,894,828千円（前年同期比25.9%増）となりました。

利益面につきましては、増収効果に加え、法人顧客構成比率の上昇に伴う配送等の効率化が進んだことなどから、営業利益419,861千円（同50.0%増）、経常利益424,970千円（同50.2%増）、中間純利益270,820千円（同29.8%増）となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ685,897千円増加し、6,042,266千円となりました。流動資産は、前事業年度末に比べ639,878千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が386,887千円減少したものの、受取手形及び売掛金が286,734千円、商品が748,362千円増加したことによるものであります。固定資産は、前事業年度末に比べ46,018千円増加いたしました。これは主に、有形固定資産・無形固定資産の取得77,314千円と減価償却費40,391千円によるものであります。

（負債）

当中間会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ456,785千円増加し、1,957,744千円となりました。流動負債は、前事業年度末に比べ506,789千円増加いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が318,956千円、電子記録債務が106,028千円増加したことによるものであります。固定負債は、前事業年度末に比べ50,004千円減少いたしました。これは、長期借入金の返済によるものであります。

（純資産）

当中間会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ229,111千円増加し、4,084,522千円となりました。これは、中間純利益270,820千円及び剰余金の配当50,562千円によるものであります。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、1,846,058千円となり、前事業年度末に比べ、386,887千円減少いたしました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、208,737千円となりました。これは主に、税引前中間純利益424,970千円、減価償却費40,391千円と売上債権の増加286,734千円、棚卸資産の増加752,224千円、仕入債務の増加424,985千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、77,584千円となりました。これは主に、有形固定資産・無形固定資産の取得による支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、100,566千円となりました。これは、長期借入金の返済による支出50,004千円、配当金の支払額50,562千円によるものであります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2026年2月4日の「2025年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年12月31日)	当中間会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,232,945	1,846,058
受取手形及び売掛金	359,842	646,577
商品	1,216,351	1,964,713
貯蔵品	5,461	9,323
その他	51,915	39,723
貸倒引当金	△169	△169
流動資産合計	3,866,347	4,506,226
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,092,171	1,089,120
構築物（純額）	21,964	24,338
機械及び装置（純額）	20,754	43,547
車両運搬具（純額）	2,493	1,870
工具、器具及び備品（純額）	8,616	12,120
土地	272,498	272,498
建設仮勘定	—	12,100
有形固定資産合計	1,418,500	1,455,595
無形固定資産		
ソフトウェア	6,082	5,936
その他	851	824
無形固定資産合計	6,934	6,760
投資その他の資産	64,587	73,683
固定資産合計	1,490,021	1,536,040
資産合計	5,356,369	6,042,266
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	342,969	661,926
電子記録債務	282,247	388,275
1年内返済予定の長期借入金	100,008	100,008
未払法人税等	196,411	175,309
契約負債	34,748	39,009
賞与引当金	53,000	59,934
その他	283,264	374,975
流動負債合計	1,292,648	1,799,438
固定負債		
長期借入金	208,310	158,306
固定負債合計	208,310	158,306
負債合計	1,500,958	1,957,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	371,460	371,460
資本剰余金	375,728	375,728
利益剰余金	3,099,309	3,319,567
自己株式	△210	△210
株主資本合計	3,846,288	4,066,546
新株予約権	9,122	17,975
純資産合計	3,855,410	4,084,522
負債純資産合計	5,356,369	6,042,266

（2）中間損益計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）	当中間会計期間 （自 2026年1月1日 至 2026年6月30日）
売上高	4,681,540	5,894,828
売上原価	2,968,440	3,769,419
売上総利益	1,713,100	2,125,409
販売費及び一般管理費	1,433,214	1,705,547
営業利益	279,886	419,861
営業外収益		
受取利息	42	1,249
ポイント収入額	2,267	2,620
その他	1,922	2,143
営業外収益合計	4,233	6,013
営業外費用		
支払利息	1,235	905
その他	38	—
営業外費用合計	1,273	905
経常利益	282,845	424,970
特別利益		
助成金収入	41,500	—
特別利益合計	41,500	—
税引前中間純利益	324,345	424,970
法人税、住民税及び事業税	118,199	163,689
法人税等調整額	△2,423	△9,539
法人税等合計	115,776	154,149
中間純利益	208,569	270,820

（3）中間キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）	当中間会計期間 （自 2026年1月1日 至 2026年6月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	324,345	424,970
減価償却費	41,700	40,391
貸倒引当金の増減額（△は減少）	134	—
賞与引当金の増減額（△は減少）	8,669	6,934
契約負債の増減額（△は減少）	3,289	4,261
受取利息及び受取配当金	△42	△1,250
支払利息	1,235	905
助成金収入	△41,500	—
売上債権の増減額（△は増加）	△335,366	△286,734
棚卸資産の増減額（△は増加）	△435,226	△752,224
仕入債務の増減額（△は減少）	512,021	424,985
未払金の増減額（△は減少）	46,149	61,512
未払又は未収消費税等の増減額	△149,519	△7,782
その他	84,053	59,070
小計	59,943	△24,960
利息及び配当金の受取額	42	1,250
助成金の受取額	41,500	—
利息の支払額	△1,235	△905
法人税等の支払額	△64,564	△184,121
営業活動によるキャッシュ・フロー	35,685	△208,737
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△30,048	△75,564
無形固定資産の取得による支出	△2,030	△1,750
その他	△10	△270
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,089	△77,584
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△50,004	△50,004
配当金の支払額	△35,356	△50,562
財務活動によるキャッシュ・フロー	△85,360	△100,566
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△81,764	△386,887
現金及び現金同等物の期首残高	2,358,581	2,232,945
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,276,817	1,846,058

（4）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当社は、ユニフォーム販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。